

理事長ブログ

小生の名は裕道（ゆうどう）という。子供のころは裕（ひろし）であった。

16歳の時に得度し、いわば出家の身であり、いわゆる世捨て人である。したがって既に戒名が決まっていた「弘学裕道和尚」と言う。因みに父の戒名は「仁能弘道大和尚」である。名が一文字では僧侶になれないので裕に道をつけ「ゆうどう」となった。父は弘道（こうどう）で訓読みだと同じ「ひろみち」になってしまうので、音読みとした。因みに小生の子どもの名は長女が「紅（くれない）」次女が「伊吹（いぶき）」長男が「大道（たいどう）」次男が「琉道（りゅうどう）」である。

父は旧制高校出身であったので、寮歌が大好きで、長女の「紅」という名は、旧制第四高等学校（現在の金沢大学）の寮歌から採った。次女の「伊吹」は、父の出身である、旧制第八高等学校の寮歌、「伊吹おろし」から採らせてもらった。男にはみんな名に「道」をつけた。

祖父の名は寒山と言い植田にある『福田山全久寺』の第27代住職であり、第八高等学校の校長を務めていた漢学者である。その後、駒澤大学の学長の職が決まったのだが、その学長就任祝賀会の場で、脳卒中で他界した。祖父は大酒呑みで、一生のうち、25mプールに入る量の酒を呑み干したと語り継がれている。

父と母は全く酒が飲めなくて、父は何かの会の場で、日本酒をお猪口一杯飲んで椅子をひっくり返して倒れて、友人に送り届けてもらい帰宅した。小生が酒を楽しむのは、たぶん祖父の血を受け継いだのだと思う。

父の弘道は医師であり、また実家の『福田山全久寺』第28代住職も務めていた。いわゆる2刀流である。小生はというと、とても2刀流は担えないので、住職は父の弟子に譲り、医師に専念させていただいた。

父はすでにはちや整形を開業していたが、小生の子供のころから、病院を継がなくて良いと言っていた。単純な小生は父の言葉をその通りに受けとめ、東京 東中野にある親戚、父の姉の家によく遊びに行っていた。もちろん泊りで行っていたので、叔父ともよく話をしていた。

叔父は製薬会社を経営しており、今では1部上場企業だ。当時でも社員を10,000人以上抱え、日本では珍しいが、新薬開発を積極的に行い、いくつかの新薬を開発し提供していた。その代表が「キョーリナーゼ」だ。

祖父は5人の子供を授かったが、全員女性であったため小生をととても可愛がってくれた。

父と幼少期の私



当時の感覚では大企業の社長を女性が担うことはほとんど無かった。そのため東京に遊びに行った小生に「社長にならないか!？」と聞いてきた。

単純な小生は、「社長って響きがいいな!」と思い、父からも「医者にならなくて良い」と言われていたこともあって、社長の通を歩もうと思っていた。そのため、高校時代、文系の慶応の経済学部を目指していた。当然高校のカリキュラムの文系であった。

ところが、高校2年生の夏休み、叔父の家に遊びに行き、社長心得の薫陶を受けかえってくると、父が何気に、「俺が、引退したら、この病院は貸しビルにする」と言ってきた。当時、病院の今で言う西館の6階に住んでいたのも、小生は「じゃあどこに住むの?」と聞いたら、「お寺か、どこかの家を借りて住めばいい」と涼しい顔で答えてきた。小生は「従業員はどうなるの?」と聞いたら、「どこか就職先を探す」と答えてきた。

当時でも職員は100人弱おり、その中でも男性職員は30人程度いたと記憶している。当然男性職員はほとんどが家庭を持っていたので、その人たちを路頭に迷わすことになるなと直感した。

これは何とかしなければならないなと思い、小生の選択肢は社長になるのか、医者になって父の跡を継ぐかの2択になった。子供のころから大変可愛がってくれた職員が多くいたので、その人たちを路頭に迷わすわけにはいかない!と心から思い、小生は社長になる道を捨てた。高校2年生の夏休みの終わりから文系から理系に変更し、しかも医学部に受かるわけがないとは思っていたが、理系に変更する道を選択した。当然わからないことばかりで、数学は全く問題なかったが理科が最悪であった。理科は2択であったので小生は生物と科学を選択しようと思ったが、父が横槍を入れてきた。生物ではなく物理にしろと言ってきた。当時の父はとっても怖く、それまでに30回以上、拳骨で殴られて育ってきた。小生は逆らえず物理を選択したが、解らないことばかりで当然物理の成績も良くなかった。

小生は慶応の医学部と東京慈恵医大、そして名古屋にある4つの大学医学部を受験した。名古屋大学医学部、名古屋市立大学医学部、そして名古屋保健衛生大学(現在の藤田医科大学)と愛知医科大学である。合格したのは名古屋保健衛生大学と愛知医科大学だけであった。父は名古屋大学医学部出身であったので、当然小生も名古屋大学に進学させたいだろうな?!と漠然と思っていた。だから、小生は父に「父さんごめん!一年浪人するわ」と言ったら、父は「お前は馬鹿か!」と吐き捨てるように言い、「医者になったら出身大学なんて関係ない!早く医者になった者が勝ちだ!」と言い放った。小生は「でもお金がかかるだろ?!」というのと、父は「金なら出してやる。」と言ってくれた。小生は名古屋保健衛生大学に進学する道を選択した。

(2024年1月30日)

母と幼少期の私

